

2．土壌

岸和田市が含まれる泉州地域では、林地土壌の大部分が褐色森林土（林地の70％）であり、他に28％を占める残積性未熟土壌が、和泉層群及び酸性火砕岩地帯に分布している。褐色森林土のうち、黄褐系の比率が73％と高く、標準型の褐色森林土壌は、和泉市、岸和田市、貝塚市の南部の山地に分布しているが、他地域のものに比べて乾性の比率が高くなっている。

一方、農地土壌では、灰色台地土と黄色土壌が広く分布し、灰色低地土と褐色森林土がこれに続いている。岸和田市以南の灰色台地土壌地帯では、鉄、ケイ酸欠乏による老朽化水田が広く分布している。また、和泉市、岸和田市などの黄褐系褐色森林土壌及び黄色土壌地帯は、府内最大のみかん生産地として知られている（図1 - 4）。

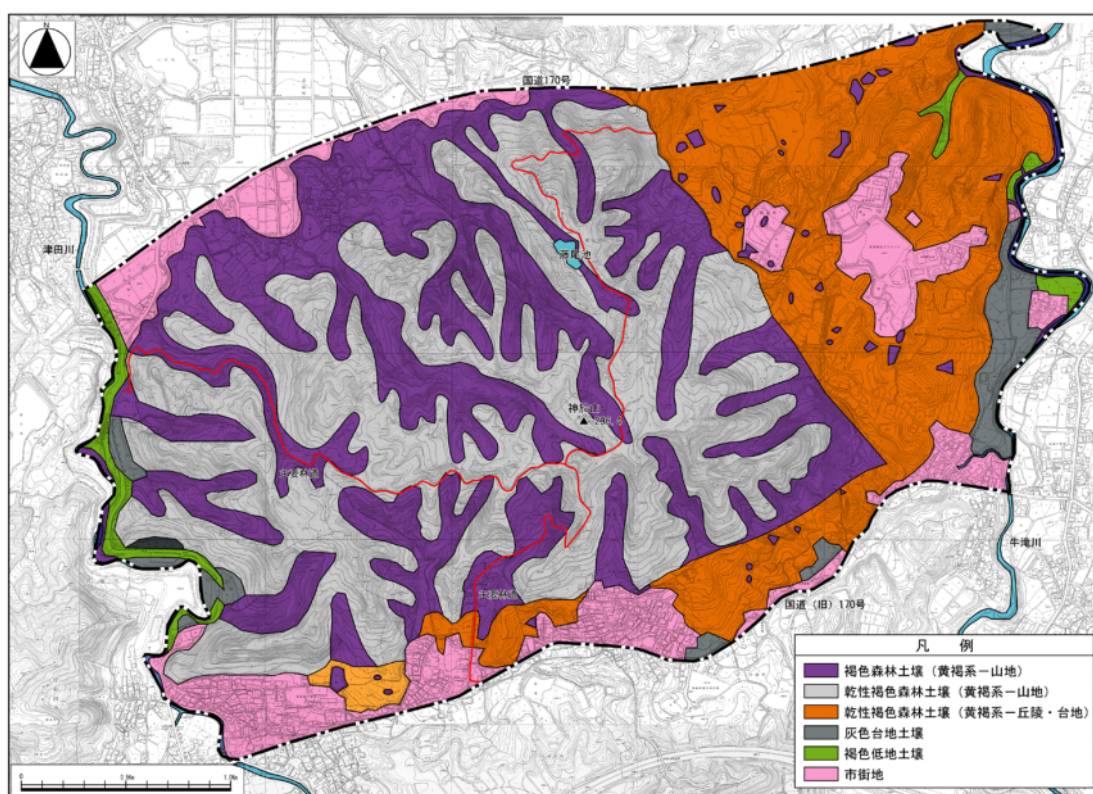


図1 - 4 土地分類図（大阪府）国土庁 土地局国土調査課 1976